

1 題材によせる授業者の思い

本学級の生徒は、合唱コンクールに向けて意欲的に練習に取り組んでいる。校内合唱コンクールは1年生にとって初めての行事になるため、イメージがもてない生徒も多いが、練習してきた成果を保護者・全校生徒の前で発表できることを楽しみにしている生徒も多く、自信をもって発表できるように支援していきたい。生徒の歌唱表現を創意工夫する過程を大切にしながら、生徒の思考の流れを把握し、生徒それぞれの思いをつないで、学級の歌いたい歌として表現していけるようコーディネートしていきたい。本題材では、校内合唱コンクールに向けた曲の練習を通して、楽曲に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素を知覚しながら、表したい歌唱表現について考え、歌唱について思いや意図をもって学習活動を進めることをねらいとしている。

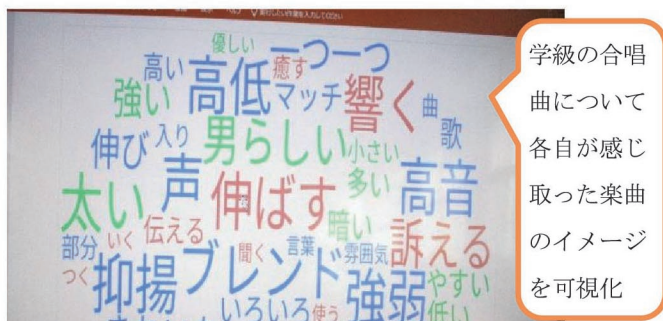
2 授業の実際

視点 I

学びを自分事として捉える指導の工夫

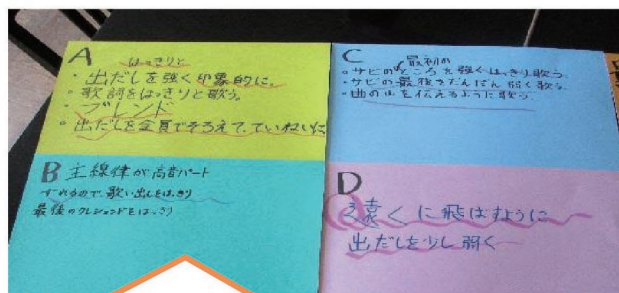
① 歌いたい曲のイメージについて生徒一人一人に考えさせ、その思いをAIを活用して可視化し、イメージを共有しやすくした。

(題材構想第1次)



学級の合唱曲について各自が感じ取った楽曲のイメージを可視化

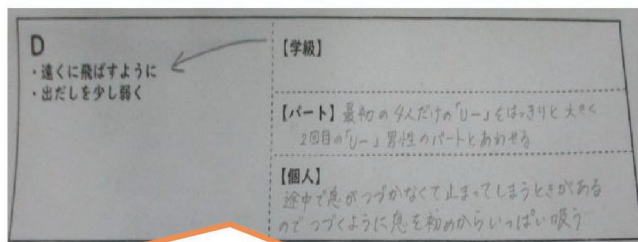
② 学級で表現したい曲のイメージに近づくために、合唱曲を曲想の異なる4つの部分に分け、それぞれの歌い方について、鑑賞曲を参考に意見を出し合った。(題材構想第1次)



鑑賞曲4曲（・長唄・オペラアリア・ポップス・祈りの歌）のうち、Dの歌い方は、祈りの歌の長く息を使うイメージで歌いたいね。

③ 見方・考え方を働かせながら合唱曲を練習していく段階においては、学級で表現したい曲のイメージに近づくために、本時で取り組む課題をパートや個人ごとに設定し、一人一人が学習課題を自分事として捉えられるようにした。

(題材構想第2次)



Dの部分の例

【学級で話し合った表現の目標】

・遠くに飛ばすように歌おう。

【パートの表現の目標】

・最初の4人だけ、「Uh～」をもっと大きく歌おう。

【個人の表現の目標】

・主旋律との音量のバランスに気を付けたい。

視点Ⅱ

課題解決に向けて、協働的に学び合う指導の工夫

- 自分の考えと他者の考えから、表現したい曲のイメージに近づくために、発声（声の響かせ方）や歌い方（歌詞の表現や強弱などの表現の工夫）の2点に着目して工夫させ、ふさわしい音楽表現を学級全員で作りに上げていくことを実感させた。（題材構想第2次）

音量や音のバランスを考えながら歌うと曲の雰囲気が変わってくるね。歌いたいイメージに近付けるよ。

音量のバランスをとるにはどうしたらいいかな。



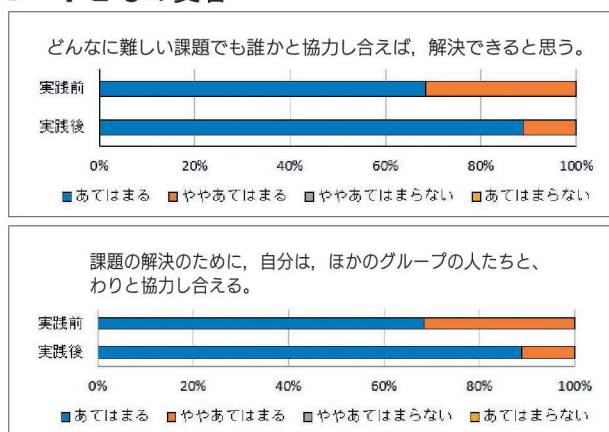
顔より高い高さを意識して音をぶつけて歌うと音が響いてくるね。

歌う時は、声を遠くに飛ばすようにすると声量が大きくなるね。

【生徒の振り返りから】

- ・ 今日意見を出し合ってDの部分の歌い方を少しずつ話し合って変えていきました。音量やバランスを考えながら歌うと曲の雰囲気が変わり歌いたいイメージに近づくことができると分かりました。
- ・ 話し合いながら歌い方を変えることで主旋律が聞こえるようになり学級でイメージした歌い方に近づいてきました。指揮者としてイメージを大切にしながら頑張りたいと思いました。

3 子どもの変容



〈考察〉

あてはまると答えた生徒の割合が増加した。粘り強く課題解決に取り組むとともに、協働的な学びの導入により、互いのよさを受容し、認め合う姿が見られた。

4 研究のまとめ（○成果●課題）

【視点Ⅰ】

- 歌いたいイメージを学級で共有してから歌唱練習をさせたことにより、改善の視点が明確になり、課題を自分事として捉え、課題解決に向かう姿が見られた。

- 題材構成の再考や単位時間において繰り返し歌い込むことができるよう、タイムマネジメントを工夫する必要がある。

【視点Ⅱ】

- 表現したい曲のイメージに近づくために、視点を与えながら課題解決に向けて取り組ませたことにより、視点を明確にして自分の考えと他者の考えを共有しながら、学級全員で作りに上げることができた。また、視点を基に評価し合うことで達成感を感じながら練習に取り組む姿が見られた。

- 学級でも、生徒同士で意見交換を行いながら、自主的に楽曲を練習する姿が見られた。

- 生徒が働かせた「見方・考え方」を見逃すことなく、注意深く見取り、称賛したり広めたりして「深い学び」へと導けるよう教師のコーディネーター力を高めていく必要がある。

実際の指導案はこちらへ▶

